

## サービス産業へのデザイン思考の適用とリフレーミングの重要性

協賛：日本物流学会ロジスティクスフロンティア研究部会・日本物流学会物流新イメージ研究会

### 主旨

組織にイノベーションを起こす方法としてデザイン思考が注目されている。これまでのデザインは視覚的なシンボル、モノを中心に展開されたが、行為のデザイン、そして組織のビジネスモデルの構築や制度のような社会システムのデザインにまでその範囲を拡張してきた。さらに今日では、地域社会の持続性や情報技術の活用などについてもデザイン思考をベースに議論がなされつつある。

しかし、デザイン思考を組織に導入すれば、イノベーションが推進されるのかという話はそう簡単ではない。David Dunne 教授は、組織にデザイン思考を導入しようとする際に、デザイン思考家と組織の間に生じる3つの緊張感を特定した。それらは、①デザイン思考家と組織の距離から生じる緊張感、②破壊的イノベーションの実行にあたって生じる緊張感、そして③視野の違いによって生じる緊張感である。

デザイン思考を組織に浸透させるためには、これらの緊張感を理解し、緩和し、新たな方向へと導くことが求められるのである。Dunne 教授は、多くの企業にデザイン思考を導入する経験を基に、3つの緊張感に対処する方法を導き出した。

今回の研究会では Dunne 教授を招聘し、彼独自のデザイン思考の考え方を報告する。それとともに、デザイン思考を日本の物流企業や商店街などの日本のサービス産業に適用する際の問題点やデザイン思考家の育成について、日本側の研究者の研究報告を交えて議論していく。

登壇者：David Dunne 氏（カナダ・ビクトリア大学経営学部教授）

酒井理 氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

庄司真人 氏（高千穂大学商学部教授）

菊池一夫 氏（明治大学商学部教授）

町田一兵 氏（明治大学商学部准教授）

大下剛 氏（明治大学商学部助手）

日時：2019年12月21日（土） 14時～16時30分

場所：明治大学駿河台校舎リバティタワー1064教室（6階）

事前予約不要

入場料無料

当日はディスカッションの部分に逐次通訳がつく予定です。報告者のプレゼンテーションは英語と日本語で行われます。